

佐賀県教育委員会
教育政策課長 様

実践校 みやき町立中原小学校
所在地 三養基郡みやき町大字原古賀 1364-2
校長 緒方 克成 印

平成 23 年度 魅力ある学校づくり推進事業計画書

平成 23 年度において、標記事業を実施したいので、次のとおり事業計画書を提出します。

1 取り組むテーマ（目指す学校づくり）

「心豊かに、自ら学ぶ力を高める学校づくり」 ～地域連携・小中連携を基軸として～

2 テーマ設定の背景、現状等

本校は、みやき町の北部に位置し、自然環境に恵まれ兼業農家も多い地域である。しかし、学びの土台となる自然体験や社会体験などの体験不足が見られたため、平成 21・22 年度において「魅力ある学校づくり推進事業」を中核として、地域との連携を図りながら体験活動の充実に努めてきた。

また、全国学力・学習状況調査や県の学習状況調査の結果から、本校でも国語・算数を中心とした更なる「学力の向上」が喫緊の課題となっている。

そこで、「地域との連携による豊かな心を育む体験活動」及び「小中連携による義務教育 9 年間を見据えた学力の向上」を基軸として、特色ある学校づくりを進めていきたい。

学力と豊かな人間性は、共に密接な関わりをもっており、本校ではこの 2 つの関係を車の両輪と考え、調和のとれた教育活動全体を推し進めてきた。また、安心して学習できる温かで支持的な学級・学校の風土づくりは、学力向上を進める上で大きな土台となり、日々の学習の取組を支えるものとする。

以上のことから、これまでの心豊かな人間性を培うことを目指した「ひと・もの・こと」の出会いを大切にする教育を今後も継続する。そして、地域人材の知恵や技能に接することができる各種体験活動を多く取り入れながら、児童に驚きや感動を味わわせたい。

学力向上については、平成 23 年度も校内研究を中心として、全ての学習の基礎となる「読む力」の向上を図り、基礎学力の確実な定着につなげていく。

また、全国や県の学習状況調査結果から、本校児童の家庭学習にかかる時間が不足している実態が浮き彫りになった。実は、平成 21 年度末に本校独自の「家庭学習のすすめ」を作成し、家庭に配布してその重要性を啓発してきたが、児童やその保護者に十分に浸透していなかったことが明らかになった。児童の成長の基盤となる望ましい生活リズムの中に、学年相応の家庭学習時間をしっかりと組み入れていくことが大切であり、このことは、中学 3 年生までの義務教育 9 年間を見据えて取り組んでいかなければならない最重要課題であると認識する。

幸いにも、平成 21 年度より中原中学校との小中連携活動が徐々に活性化し、「連携推進委員会」を中心とした全教職員間の意見交換会も軌道に乗ってきた。今後は、小・中 9 年間を見据えた「家庭学習のすすめ」を共同で作成して児童や保護者に提示する計画である。このことにより、学力向上のためには、義務教育 9 年間において、家庭でのより良い学習習慣や基本的な生活習慣の確立が不可欠であることを啓発し、学校での学習と家庭での学習を有機的に関連させ、ともに質的な向上を図っていきたい。

また、6 年生を中学校へスムーズにつなげるためにも、小中連携を推進していきたい。

3 取り組むテーマの成果指標及び目標

成 果 指 標	① 地域人材を活用した体験活動の回数 5回 ② 月1回の家庭での「ファミリー読書」の定着率 80% ③ 言葉に着目した読み取りができる児童の割合 90% ④ 学年に応じた家庭学習時間の確保 90% ⑤ 先進校視察及び校外研修報告会 8回 ⑥ 講師活用による授業力向上のための職員研修会 5回
成果指標の目標 (数値目標)	(現状) ⇒ (目標) ① 5回 → 5回 ② 70% → 80% ③ 75% → 90% ④ 75% → 90% ⑤ 5回 → 8回 ⑥ 3回 → 5回
	(目標の根拠) ① 地域人材を活用した体験活動の回数を維持し、地域連携を深める。 ② 親子読書の定着を図るため、「ノーテレビデー・ノーゲームデー」と合わせて「ファミリー読書」を月1回実施するとともに、児童の家庭における読書量を増やす。 ③ 言葉に着目した読み取りができる児童を増やし、基礎学力の向上を図る。 ④ 小・中9年間を見据え、「家庭学習のすすめ」を活用した手だてを講じ、学年に応じた家庭学習時間を確保する。 ⑤ 研究会等の情報や実践を紹介討議し、職員相互の研鑽を図る。 ⑥ 本校教育の現状を的確に把握し、講師招聘による研修を深め、授業力向上に結び付ける。

4 事業期間

平成23年 6月 ~ 平成24年 3月

5 実施内容

(1) 協議・検討のための会議等の設置

主な構成等	人員数	開催予定回数
○ 学校づくり委員会 ○ 構成員 中原小学校評議員, PTA 代表, 老人会, 主任児童員, 中原中教職員, 中原小教職員, 三神教育事務所担当 者, 町教委担当者	13名	年3回

(2) 予定している主な調査・研究活動

<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの取組状況の確実な振り返り ○ 地域人材の発掘及び人材リストへの追加 ○ 体験活動(栽培活動, 和ろうそく作り等)を学力向上に結びつける活用方法の研究 ○ 「読む力」向上をめざす国語科授業研究会 ○ 学力向上に資する研究会参加及び先進校視察 ○ 授業力向上をめざした職員研修会 ○ 「小中連携推進委員会」を中心とした連携活動の活性化 ○ 小・中9年間を見据えた「家庭学習のすすめ」の作成と保護者への啓発活動 ○ Q-Uアンケートを活用した学力向上の土台となる温かで支持的な学級づくり

(3) その他、当事業において実施する事項

- 小中のつなぎをスムーズにするために、相互乗り入れ授業を実施する。
- 小中相互に授業参観を行い、それぞれの教育活動を理解するように努める。
- 学校・家庭・地域連携・小中連携に関する取組紹介を学校ホームページにより随時情報発信する。

6 教育事務所、佐賀大学、教育センター等の活用計画

実施時期 (月)	協力要請先 支援要請先	協力要請及び支援要請の内容
5月	教育センター等	「望ましい家庭学習とその取り組ませ方について」
6月	三神教育事務所	「研究授業(国語)における指導・助言」
8月	佐賀教育心理センター	「Q-Uアンケート 結果の考察と活用について」
8月	佐賀大学文化教育学部	「学力向上 ～国語科の活用力を伸ばす指導法とは～」
10月	三神教育事務所	「研究授業(国語)における指導・助言」

7 所要額及び積算内訳 (平成23年度分)

節・細節	所要額 (千円)	積算内訳 (千円)
旅費	95,000 円	<ul style="list-style-type: none"> ・研究会旅費 3,000 円×6人=18,000 円 ・先進校視察 8,000 円×7人=56,000 円 (熊本市及び北九州市等) ・学校づくり委員会費用弁償 1,000 円×7人×3回=21,000 円
需用費	110,000 円	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修経費 (30,000 円) ・苗, 肥料代 (25,000 円) ・交流活動消耗品費 (30,000 円) ・家庭・地域への情報発信経費 (25,000 円)
報償費	10,000 円	(栽培体験活動) <ul style="list-style-type: none"> ・農園耕地・管理 10,000 円×1回=10,000 円
謝金	20,000 円	(地域人材活用) <ul style="list-style-type: none"> ・講師謝金 2,000 円×10人=20,000 円
調査委託料	0 円	
合計	235,000 円	